東京帝國大學經濟學會

經濟論叢

第五十一卷第二號

昭和十五年八月

哀辭　故財部教授遺影署名及原稿

論叢

支那の農家負債と農地の抵押……　經濟學博士　八木芳之助

水産資源の保全について……　經濟學博士　蜷川虎三

時論

東亞新秩序建設と新國民政府の發展性……　文學博士　矢野仁一

研究

民國初期の兌換券……　經濟學士　德永清行

自由貿易主義の吟味……　經濟學士　岡倉伯士

記事

財部教授逝く、

故財部教授年譜及著書論文目錄

追憶文

神戸正雄　本庄榮治郎　蜷川虎三

木村喜一郎　吳文炳　宗藤圭三　岡崎文規

青盛和雄　松岡孝兒　石川興二　菊田太郎

黑正巖　藤本幸太郎　谷口吉彥

附錄

彙報

外國雜誌論題

記事

財部教授逝く

財部靜治先生は明治三十七年三月京都帝國大學法科大學の業を卒へ、同年十月講師を囑託せられ、三十九年十月助教授に進み、大正四年法科大學教授となつて統計學講座を擔當し、大正八年經濟學部の創設と共に同學部勤務となり、教職にあること實に三十三年九ケ月の長きに及んでゐる。

他方に於て先生は經濟學部長(大正十二年及昭和三年)評議員(大正十三年)として本學の發展のために盡されたのみならず、中央統計委員會委員・勞働保險調査會委員として國の行政にも關係せられ、國際統計協會正會員に推されて世界の學界に重きをなし、またわが京都帝國大學經濟學會の評議員として盡された所も甚だ大であつた。

先生は今迄幾度か奇蹟的に重病を克服された。今回も同樣の奇蹟を期待してゐたのであつたが、遂に七月七日午前四時永眠せられた。享年六十、誠に惜しいことである。財部家に於ては翌八日午後四時蓮華谷火葬場に於て遺骸を荼毘に附し、越えて十日午後二時京都帝國大學經濟學部構內に於て神式によつて莊嚴なる葬儀が執行された。修祓・獻饌・誄詞の後、京都帝國大學總長・京都帝國大學經濟學部長・門下生代表・中央統計委員會・三州學舍・京都帝國大學學友會長・學士會・京都帝國大學經濟學部學生代表等の弔詞があり、弔電は公爵島津忠承・前京大總長文學博士小西重直・前臺北帝大總長文學博士幣原坦・法學博士高野岩三郎・柳澤統計研究所總裁伯爵柳澤保承・內閣統計局長川島孝彥諸氏以下一三〇通に達した。ついで齋主・遺族・參列者の玉串拜禮の後、午後三時より四時まで一般告別式を行つた。會葬者約四百名、撤饌によつて式を閉じた。

これより前先生の訃報天聽に達するや、畏れ多くも幣帛並に祭粢料を下賜され、先生の生前の功勞を嘉せられ正三位に敍し旭日重光章を賜ふた。先生の餘榮、遺族の榮光思ふべきである。

左にわが京都帝國大學總長・經濟學部長及門下生代表の弔詞を錄する。

謹ミテ京都帝國大學教授財部靜治君ノ靈ニ白ス　君ハ本學法科大學ニ學ビ業ヲ卒フルヤ同學ニ助教授トナリ次デ教授ニ任ジテ統計學講座ヲ擔當シ深淵ノ學識磊落ノ風格ヲ以テ子弟ノ教育ニ從フコト三十三年餘ノ久シキニ及

ベリ　其ノ間或ハ評議員トシテ或ハ經濟學部長トシテ力ヲ本學ノ經營ニ竭シ經濟學部現今ノ隆昌ノ如キ君ニ負フ所頗ブル多シト爲ス　君壽將ニ華甲ヲ周ラムトシ舉學君ガ晩年ニ寄託スル所更ニ大ナリシニ今ヤ卒然トシテ訃ヲ聞ク痛惜哀悼何ゾ堪ヘム　茲ニ永訣ノ嚴儀ニ列シ恭シク弔辭ヲ陳ブ

昭和十五年七月十日

京都帝國大學　總長　羽田亨

弔辭

昭和十五年七月七日　吾國統計學界ノ耆宿財部靜治先生溘焉トシテ逝カル　茲ニ先生ガ其ノ尊キ生涯ノ最後マデ愛着措カザリシ吾ガ經濟學部ノ構内ニ恭シク祭壇ヲ設ケテ先生在天ノ靈ヲ招ジ吾等ノ最後ノ告別ヲ請ハントス

先生ハ明治十四年一月三日　鹿兒島市鼓川町和田直右衛門ノ次男トシテ出生セラレ　同市松原小學校ヲ終エテ幼時ヨリ資性頴敏、入リテ財部家ノ世嗣トナラル　次イデ高等中學造士館補充科ニ進マレ　在學二年ニシテ東京市ニ轉住セラルヽト共ニ錦城中學校ニ轉ゼラレ　卒業後第二高等學校ヲ經テ明治三十七年三月京都帝國大學法科大學政治科ヲ卒業セラル　資性聰頴向學ノ念ニ燃エラルヽ先生ハ直チニ研究生活ニ身ヲ投ゼラレ　茲ニ先生ノ全

生涯ニ亙ル學究生活ハ開始セラレタリ　同年十月ニハ既ニ早ク法科大學講師ヲ囑託セラレ　三十九年十月其ノ學的業績ヲ認メラレテ法科大學助教授トシテ任官セラル

爾來今日ニ至ルマデ實ニ三十三年九ケ月ノ久シキニ亙リ　終始一貫シテ本學ニ在職セラレ其ノ功績定ニ顯著ナリ　明治四十四年ニハ統計學研究ノタメ三ケ年間獨・英・米三ケ國ニ留學ヲ命ゼラレ　大正四年任ヲ果シテ歸朝セラル　同年法科大學教授ニ任ゼラレ　統計學講座ヲ擔任セラル　翌大正五年ニハ法學博士ノ學位ヲ授ケラレ　大正八年經濟學部ノ創設ト共ニ之ニ轉ジテ　引續キ統計學講座ヲ擔任セラレ以テ今日ニ及ブ

大正十二年及昭和三年ニハ二回ニ亙リテ經濟學部長ニ補セラレ　大正十三年ニハ評議員ヲ命ゼラレテ　大學並ニ學部ノタメニ盡瘁セラルヽ所寔ニ尠カラズ　殊ニ當時ハ吾國思想界ノ混亂時代ニシテ　吾ガ學部マタ未曾有ノ難關ニ遭遇シタルガ　幸ニ此ノ難局ヲ打開シテ能ク今日アルニ至レルモノ先生ノ御盡瘁ニ負フ所少ナカラズ　學部今日ノ健全ナル發展ヲ見ルニツケ先生ノ功績ヲ銘記スベキナリ

先生ノ專攻ハ統計學ニ終始セラレ　當時尚ホ草創時代ニアリシ吾國統計學界ニ在リテ　早クモ獨逸統計學ノ體

系的研究ト普及ニ努メラレ　其ノ著書『ケトレーノ研究』及『社會統計論綱』ノ如キハ當時ノ學界ニ推賞セラレタルモノナリ　爾來孜々トシテ斯學ノ研鑽ト普及ニ努メラレ　吾國統計學ノ興隆ト多數統計學者ノ輩出ヲ見ルニ至レル功績ハ寔ニ沒スベカラザルモノトス　先生ハマタ專門ノ統計學ヲ通ジテ社會的ニ貢獻セラルヽ所少カラズ　或ハ中央統計委員トシテ或ハ勞働保險調査委員トシテ盡瘁セラレマタ吾國ニ國勢調査ノ創設セラルヽヤ之ニ協力シテ　其ノ趣旨ノ普及徹底ニ努メラル　後年ノ著書『國勢調査問題講話』ハ其ノ結果トシテ生レタルモノナリ

先生ノ學問的興味ハ統計學ノ範圍ニ止マラズ　廣ク吾國及支那ノ古典ニ通ジ　殊ニ晩年ニハ支那經濟思想ノ研究ニ興味ヲ有セラレテ　最近ノ特殊講義及經濟演習ニ於テハ　主トシテ此ノ方面ノ研究指導ニ當ラレタリ　ワガ經濟學部ガ東亞新秩序ノ建設ニ貢獻スベキ研究ト指導ニ進ミ得タルハ　マタ先生ノ示唆ニヨル所少カラザルナリ

先生ハ極メテ名利ニ恬淡ニシテ敢テ其ノ功ヲ誇ラズ　俗世ニ超越シテ悠々學ヲ樂シムノ風アリ　其ノ言動往々ニシテ凡俗ノ企テ及バザルモノアルモ　平常努メテ謙抑ニシテ寡默多クヲ語ラズ　而カモ其ノ慈味アル溫情ハ自然ニ發露シテ　人ヲシテ懷カシムルモノアリ　其ノ高潔ナル人格ト堅固ナル志操トハ　永ク後世ノ學界ニ傳フベキモノナリ　先生ノ人格ト學問ハ之ヲ譬ヘバ山深キ岩陰ニ床シク隱レテ其ノ純白ト芳香ニ匂ヘル蘭花ノ如キモノカ

先生ハ本年度初頭ノ頃ヨリ稍々其ノ健康ヲ害セラルヽヤニ見ラレ　吾等ハ多少其ノ負擔ヲ輕減セラレテ專ラ靜養ニ努メラルベク進言シタルモ　頑トシテ容レラレズ　時ニハ甚ダシキ步行ノ困難ヲ冒シテ迄モ其ノ講義ヲ續ケラルヽノ狀態ナリキ　先生スデニ本年ヲ以テ數ヘ年六十ニ達セラレ　來年一月ニハ滿六十歲ノ佳齡ヲ迎ヘラルベク　吾等モマタ其ノ佳キ日ヲ期待シテスデニ還曆祝賀ノ準備サヘ考慮シキタルニ　僅カニ三旬ノ病ヲ以テ先生今ヤ亡シ　悼惜何ゾ言フニ耐エン　恭シク弔辭ヲ述ベテ先生ノ靈ヲ慰ム　希クバ來リ饗ケヨ

昭和十五年七月十日

京都帝國大學　經濟學部長　谷口吉彥

弔詞

謹で恩師財部靜治先生の御靈前に申上げます

先生が京都帝國大學の講壇に立たれて三十三年餘　聽講の學生數千人に及び　學殖深き先生の講筵に列することを競つたのでありますが　今や先生亡く　再び慈顏に

接し溫容を拜することが永遠に閉ざされてしまひました悲みても餘りあることであります

先生が我國の統計學に科學的基礎を與ふべく斯學が未だ發達せざる時に於て專心これが研究に努められ　わが統計學界のため學問的研究に於て子弟の教育指導に於て多大の貢獻をなされた第一人者であることは私どもの申すまでもない所であります

而も先生の學殖はただに統計學の領域のみに限られず日本及び東洋の古典に通ぜられ　日本獨自の　また東洋獨自の經濟學を研究建設して西洋亞流の經濟學を以て滿足すべからざることを唱導され　よくその研究業績に於てこれを示されました　從つて先生の學は洋の東西に通じ古今に亙りその博學深遠なることは窺ひ知り得ざるものがありました　今や世界の舞臺に於て新東亞の建設に擧國邁進してゐる秋　先生の御力に俟つべきことが甚だ大なるにも拘らず　先生はこのときに溘焉として逝かれました　學界のため　國家のためはたまた東亞のため痛惜限りなき所であります

先生は學問に對し篤實　世俗に對し超然　その謙虛なる東洋的風格は親しく教を受けた者の敬慕して止まぬ所であります　先生は研究指導に於ても決して自らを主張されず　學ぶ者の自發的精神に待ち　これを親切に誘導して本人の氣づかざる所で蔭ながら援助し素知らぬ風をされるのが先生でありました　德を以て化すとは正に先生の實踐躬行された所であり　先生の體現された所であります

私どもはこの先生の盡きせぬ慈愛の下にはぐくまれ育てられ　自由に學問に親しむことの出來たことは寔に感謝感激の他なき所であります　而も私どもの未熟なる學問はなほ先生の御教導の下に於て今後の努力を期せねばならぬ時　先生にお別れせねばならぬとはわれわれの心が天に通じなかつたためでありませうか　先生なき私どもは寔に暗憺たるものであります

しかし私どもはこの學都京都に礎石を置かれた先生の統計學に精進し　先生の遺された珠玉の業績を傷つけざらんことを期してをります　先生の御高恩　私どもの痛惜の心情　ここに貧しい言葉を以てしては現すことが出來ませぬ

先生　どうかこの蕪雜な言葉をお享け下さい

昭和十五年七月十日

門弟一同を代表して

蜷川虎三